

## 地域の情報

## 十日町小学校との特色ある交流及び共同学習 2

大 島 貴 子\*・廣 田 稔\*・村 中 智 彦\*\*・齋 藤 一 雄\*\*

## 1 十日町市立ふれあいの丘支援学校の概要

ふれあいの丘支援学校（以下、ふれあいの丘）は、平成24年の十日町市立十日町小学校（以下、十日町小）の校舎改築に伴い、平成25年4月に市立の特別支援学校として開校した。十日町小、市発達支援センターと同じ建屋内にあり、体育館や屋上プール、ふれあい広場（オープンスペース）等多くの共用スペースがある。十日町小とは、前身の県立小出養護学校（現小出特別支援学校）ふれあいの丘分校（平成14年に十日町小学校旧校舎内に開設）の頃から交流活動が行われている。現在では、十日町小全体での交流活動の他、4年生が交流学年となり、中心となって年間多くの交流及び共同学習を行っている。

ふれあいの丘は、小学部、中学部のある知的障害の特別支援学校である。平成27年度の児童生徒数は、小学部14名（5学級）、中学部18名（5学級）、計32名である。

十日町小の特別支援学級（自閉・情緒障害、知的障害）、3つの通級指導教室（言語障害、発達障害、難聴）、そして、幼児期からの発達相談、訓練、研修、家族支援を担う市発達支援センターが併設され、複合的に整備されている。

## 2 交流及び共同学習の取組

## (1) 様々な学校との交流活動

ふれあいの丘の他校との交流及び共同学習は、十日町小との連携が主である。しかし、それだけではなく小学部児童の居住地校、郡市内の小・中学校や近隣の特別支援学校、県立小出特別支援学校川西分校と交流活動を行っている。今年度は、市内小学校特別支援学級、小千谷市立総合支援学校との3校合同での交流会も実施された。それぞれの発表を見合ったり、歌やゲームを通して楽しんだりしながら、人間関係づくりの広がりを図ることができた。

## (2) 十日町小学校との交流及び共同学習

平成27年度の十日町小との交流及び共同学習をまとめると表1のとおりになる。

## ① 行事交流

ふれあいの丘と十日町小は、学校行事のメインとなる運動会や文化祭等の大きな行事を合同開催とし、全校児童生徒がめあてや活動の一つにして活動している。

「顔合わせ会」（4月）

毎年4月に、ふれあいの丘と十日町小の児童生徒、ふれあいの丘・十日町小・発達支援センターの3施設の職員が一堂に会し、顔合わせ会を行っている。ふれあいの丘の児童生徒は一人一人自己紹介を行い、顔と名前を覚えてもらう。これ

表1 平成27年度 十日町小学校との交流及び共同学習

日にち	活動内容	ふれあいの丘の 対象児童生徒	十日町小の対象児童
4/14	顔合わせ会	全校	全校
5/23	城ヶ丘ふれあいカーニバル(運動会)	全校	全校
5/28	リボンづくり	全校	4年生
6/9	リボン給食 ～7/22	全校	4年生
6/18	「大地の芸術祭」作品づくり	全校	4年生
6/30	やまびこ班仲良しウォークラリー	全校	全校
7/7	七夕お楽しみ会	全校	特別支援学級
9/8	リボン給食 ～12/1	全校	4年生
9/14	「ハンドスタンプアート」作品づくり	全校	4年生
9/16	リボン活動	全校	4年生
9/17	「夢先生」教室	5年生	5年生
10/6	持久走大会	小学部	全校
10/18	城ヶ丘ふれあいフェスティバル(文化祭)	全校	全校
10/23	やまびこ班遊び相談①	全校	全校
10/27	やまびこ班遊び①	全校	全校
10/26	授業交流(県庁見学)	上学年	4年生
10/29	やまびこ班遊び相談②	全校	全校
10/30	授業交流(河岸段丘、リサイクル工場見学)	6年生	4年生
11/4	リボン給食ウィーク ～11/13	全校	4年生
11/16	授業交流(ビッグフェスタリハーサル)	小学部2組	4年生
11/19	城ヶ丘3施設ビッグフェスタ	全校	全港
12/1	ビッグリボン活動	全校	4年生
12/3・4	授業交流(国語:劇「こんぎつね」4年生による上演)	全校	4年生
12/8・15	授業交流(体育「ラグビー型ゲーム」)	3年生	4年生
12/17	クリスマスお楽しみ会	全校	特別支援学級
1/21・28	授業交流(体育「クロスカントリースキー」)	3年生	2年生
2/4	豆まきお楽しみ会	全校	特別支援学級
2/23	ありがとうの会	全校	4年生

が交流活動のスタートとなる。

「城ヶ丘ふれあいカーニバル(運動会)」(5月)

ふれあいの丘の児童生徒も、十日町小の児童とともに赤組、白組に分かれて応援合戦をしたり、競技に汗を流したりした。当日の競技を共に行うだけでなく、運動会スローガン発表、応援リーダー、ダンスリーダー等、当日に至るまでの企画運営や練習にも携わり、共同開催の意義を大きくしている。ふれあいの丘種目の徒競走や綱引きでは、交流学年の4年生から手製の応援旗を振っての応援を受けた(図1)。

\* 十日町市立ふれあいの丘支援学校

\*\* 上越教育大学



図1 城ヶ丘ふれあいカーニバル

「城ヶ丘ふれあいフェスティバル（文化祭）」（10月）

午前中は、体育館ステージでの音楽発表会、午後は中学部生徒が「ふれあいカフェ」「ふれあいショップ」を開いた。音楽発表会では、運動会と同様にふれあいの丘の児童生徒も運営にも携わり、十日町小児童とともに進行アナウンスや終わりの言葉を担当した。午後からのカフェとショップは、多くの児童や保護者の来店があり、中学部生徒が笑顔で対応した。

「城ヶ丘3施設ビッグフェスタ（児童会祭り）」（11月）

ふれあいの丘、十日町小、発達支援センターがの当てやボウリング等の店を出し、児童生徒が各出店を回って楽しむ活動である。十日町小児童がふれあいの丘の出店で遊んだり、ふれあいの丘の児童生徒が十日町小の出店を楽しんだりしている。今年度は校内研修でビッグフェスタに関わる授業研究を行ったため、十日町小4年生が小学部の授業に参加してビッグフェスタ当日までに出店の感想やアドバイスを伝える活動も行った。よりよい出店をつくるために、高め合う意識を醸成する機会にもなった。

#### ②やまびこ班（全校縦割り班）交流

ふれあいの丘と十日町小の全児童生徒で「やまびこ班」という縦割り班を構成し、運動会のダンス練習や遊び活動等、年間を通して活動している。各やまびこ班は14名ほどで、ふれあいの丘児童生徒は各班に1～2名ずつ所属している。1学期には「やまびこウォークラリー」が開催され、校舎内外に設置されたクイズやゲームを班ごとに回り、協力して課題のクリアを目指した。2学期には「やまびこ班遊び」を行った。班ごとにドッジボールやおにごっこ、風船バレー等の遊びを計画し、昼休みの時間に一緒に遊んだ。ふれあいの丘と十日町小の児童生徒で、やまびこ班ごとに遊びの相談と活動を2回ずつ行った。

#### ③十日町小特別支援学級との交流及び共同学習

十日町小の特別支援学級と、主に「七夕お楽しみ会」「クリスマスお楽しみ会」「豆まきお楽しみ会」等の集会活動を通して交流をしている。各集会活動では小学部とともに音楽発表も行っている。今年度は、七夕お楽しみ会の「きらきらぼし」の器楽演奏、クリスマスお楽しみ会の「ジングルベル」のミュージックベル演奏に向けて合同授業日を設け、みんなと合わせて音楽を楽しむ経験を共有した。

#### ④授業交流及び共同学習

十日町小の授業に参加して学習する機会も設定している。

今年度は、小学部1組の児童が4年生の体育の授業に参加し、ラグビー型ゲームを経験した。運動量を確保したり新しい種目に挑戦したりと、刺激を受けよい経験となった。

#### ⑤休み時間の自由な交流

昼休みになると、ふれあい広場やふれあいグラウンド等の共有スペース、ふれあいの丘や十日町小の教室等で、両校の児童生徒が一緒に遊ぶ姿が見られる。同年代の友達として自由に交流をしている。ふれあいの丘と十日町小は授業時程が異なっているが、毎週火曜日は十日町小が時程を変更し、昼休みの時間をふれあいの丘の休み時間とそろようしている。これも自然な交流を支える大事な要素となっている。

#### ⑥4年生との交流及び共同学習

十日町小では、前述のとおり毎年4年生が総合的な学習の時間等を通して、ふれあいの丘の児童生徒と交流及び共同学習をしている。一緒に遊んだり作品制作をしたりする計画を立て、両校の児童生徒はその活動を楽しみにしている。どんな活動をしたいか、継続していくのかは、児童の思いや発想が中心で、4年生同士が話し合ったり、ふれあいの丘の児童生徒や職員と話し合ったりしながら実現していく。また、4年生は学んだことや感じたことを振り返る機会をもち、交流の楽しさやその意味、自分自身の変化や成長を感じていく。

「リボンづくり（交流シンボルづくり）」

「結ぼう心のリボン」が今年度の交流の合言葉である。「自他を認める柔らかな心、自分から仲良くなろうとするしなやかな心。心のリボンを結んでいくと、今よりもっと長く広いリボンになってたくさんの人を包み込める」という思いが込められている。そのシンボルとなるようなリボンをつくろうと行ったのが、リボンづくり活動である。絵の具やペンを使って好きな絵や模様を長い布に描き、リボンの形に結んで仕立てた。出来上がったリボンは交流活動の場となるふれあい広場に飾られた。

「『人権の花』を育てる活動」

4月に人権キャラバン隊が来校し「花を育てて優しい心を育てよう」と、花の苗とプランターをプレゼントしてくださった。ふれあいの丘と4年生は「そだてよう やさしさの花」という看板を作り、栽培活動を行った。毎日互いに誘い合って水やり活動を行い、当番活動を通して責任感も養った。

「リボン給食（交流給食）」

「楽しく話をしながら給食を食べたい」という思いから始まったのがリボン給食（交流給食）である。1学期はできる限り多くの回数を重ねたいと、週に4日のリボン給食を行った。交流活動が多くなる2学期は、曜日を決めたり強調週間を設定したりして行った。お互いに好きな食べ物やアニメの話等をしながら給食を食べ、一人一人を知る機会にもなっている。

「『大地の芸術祭』参加作品づくり」

十日町市と隣接する津南町では、3年に1回「大地の芸術祭」という大きなイベントが行われる。各国の芸術家たちが十日町市と津南町の各所に芸術作品を制作、展示する。

その一つ、武藤亜希子さん注)の「T+S+U+M+A+R+Iのかけら」の作品づくりワークショップに4年生と共

に参加した。十日町を代表する火焰型土器の形をした台紙に、一緒に布や紙を貼り付けたり絵を描いたりしながら、楽しく作品づくりをした。制作した台紙を4枚組み合わせるとオリジナル土器が完成する。作品は、芸術祭の開催期間中、市内に展示され、小学部の児童は授業を通して鑑賞に出かけた。

「『ハンドスタンプアート』作品づくり」

「障害を抱えるお子さんの手形足形を集めてギネス記録となる世界一大きな絵を描こう」という「ハンドスタンプアートプロジェクト」の作品づくりに4年生と共に参加した。

手に絵の具のような塗料を塗り、大きな紙にスタンプを押す。自分の好きな色を選んで次々に押していき、みんなでカラフルな作品に仕上げた。

作品づくりの後は、プロジェクトメンバーのライブを聴き、一緒に歌ったり身体表現をしたりしながら盛り上がり、楽しいひとときを過ごした(図2)。



図2 「ハンドスタンプアート」作品づくり

「城ヶ丘ふれあいフェスティバル合同合唱」

ふれあいフェスティバルの音楽発表では、小学部、中学部それぞれの発表の後、4年生と一緒に「YUME日和」を合唱した。この曲はふれあいの丘の児童生徒が春から親しんできた曲で、所々に手話を入れている。そこで、中学部生徒が4年生に手話を教える機会を設定した。

合同ステージ練習を重ね、発表会当日は間奏時にリボンを登場させる演出を取り入れ、歌声を響かせた。保護者や地域の方々に、ふれあいの丘の児童生徒と4年生との交流の姿を見てもらう場となっている(図3)。

「リボン活動」

4年生の計画により、やまびこ班ごとに遊んだり調理活動をしたりする「リボン活動」を設定した。1回目は1時間の時間設定で主にゲーム等の活動を、2回目は2時間の設定で調理やミニピクニック等を入れた活動を行った。4年生は、「自分たちもふれあいの児童生徒も楽しめる」という視点で話を重ね、計画を練った。活動当日は多くの笑顔や歓声があふれ、互いに交流及び共同学習の楽しさを実感していた。

### 3 交流及び共同学習を通しての成果

#### (1) ふれあいの丘支援学校の児童生徒における学習成果

4年生をはじめとする十日町小の児童と交流及び共同学習を



図3 城ヶ丘ふれあいフェスティバル

行うことで、多くの人とかかわりが生まれ、一緒に活動することの楽しさを感じたり、新しい経験を積んだりすることができた。また、回数を重ねるたびに、職員の支援がなくても自然に呼び掛け合ったり活動を楽しんだりする姿が増えた。大勢の場が苦手な児童生徒も、抵抗なく様々な活動に参加する姿が見られるようになった。

交流及び共同学習について、地域や保護者からの期待は大きい。多くの活動と一緒にを行い、その中でお互いのよさを認め合ったり、かかわりの幅を広げ合ったりする姿に、保護者からの評価は高い。

#### (2) 十日町小学校の児童における学習成果

4年生は、ふれあいの丘の児童生徒と交流及び共同学習を行うことでかかわりを広げ、交流することの楽しさを実感するだけでなく、どんなかかわりの仕方がよいのか、どうしたらみんなが楽しく仲良くなれるのかを考えるようになった。また、同じやまびこ班に所属するふれあいの丘の児童生徒と繰り返ししかかわることで、その子のよさや優れたところ、人となりを理解してきた。時には手助けをし、時にはふれあいの丘の児童生徒から教わりながら、障害の有無にかかわらず、誰もが皆、それぞれの個性をもっていること、そして、その素晴らしさや皆同じ仲間であることに気付くようになった。言葉だけではなく、経験から実感する学びを得ることができた。

4年生で交流及び共同学習を経験したことで、高学年になった時、低学年やふれあいの丘の児童生徒への合理的配慮を考えながら学校生活を送ったり、児童会運営をしたりすることができる。4年生の学びがその後に生きていく。

十日町小の児童は、「4年生になると交流学年になって、たくさん交流することができる」と期待感をもっている。そして、ふれあいの丘の児童生徒を、同じ建物で共に学ぶ仲間として認識している。この意識はこれまで継続してきた交流及び共同学習の大きな成果であり、特別支援学校と小学校の児童生徒がいつでも身近にいるというこの環境を最大限に生かし、育んできた姿である。今年度も十日町小を卒業した中学生が、ふれあいフェスティバルの楽器運搬ボランティアに来てくれた。小さい頃から交流し理解し合うことの大切さを感じる。現在の環境から成し得ることは多いが、今後も交流及び共同学習の有効性を発信し、その発展と推進を図っていきたい。

#### 4 今後の課題

##### (1)担当職員、全職員での共通理解

その年の交流のテーマや交流活動の方向性は、4年生担任が児童の実態等を基に設定する。それを受けて、ふれあいの丘の担当職員と話し合いが進められ、1年間の交流及び共同学習の内容や方法が決まる。双方に有意義な交流活動を行うために、より細かな話し合いや早期の計画策定が必須である。ふれあいの丘では児童生徒全員での活動となるため、全職員への活動の意図やめあて、内容等を周知徹底し、支援の方法を考える必要がある。

##### (2)生活年齢を考慮したかかわり方の検討

ふれあいの丘には中学部の生徒も在籍しており、特に今年度は3年生の生徒が多く、生活年齢では先輩に当たる。4年生の考える活動内容やかかわりの仕方には、実態にそぐわないと感じられるものもある。合同合唱の手話指導やビッグフェスタの作業学習体験等、中学部の生徒が4年生に教える機会を設定したが、今後も児童生徒の生活年齢を考慮したかかわり方や活動内容の精選、検討が重要である。

##### (3)一人一人の課題や実態に合った交流及び共同学習

ふれあいの丘の児童生徒は、それぞれに実態や課題が違う。大勢の場が苦手な児童生徒もいる。一人一人の実態や課題に合った交流及び共同学習のめあてや支援の方法、時間配分等を考え、活動が児童生徒の負担過重にならないように配慮する必要がある。

また、4年生は総合的な学習で交流及び共同学習が進められているが、ふれあいの丘では各教科や合わせた指導等の時間内で行っている。時数的にも過重にならないように考慮していくことが大切である。

注) 武藤亜希子 「T+S+U+M+A+R+I のかけら」

7月26日 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ  
2015